

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（4月）

もも

せん孔細菌病

- ・春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じます。
- ・病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染します。
- ・枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要です。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分しましょう。
- ・風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行いましょう。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等）

クビアカツヤカミキリ

- ・幼虫は、幹や枝から中華麺～うどん状のフラス（木くず等の混合物）を出します。フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフッド、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫しましょう。

なす（施設栽培）

アザミウマ類

- ・ミナミキイロアザミウマとミカンキイロアザミウマが加害します。
- ・苗からの持ち込みによる発生に注意しましょう。
- ・発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布しましょう。
- ・育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用しましょう。
- ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布しましょう。
- ・雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底しましょう。

たまねぎ

べと病

- ・越年罹病株が感染源となり、3～5月に気温が高く降水量が多いと2次感染株発生が増え、急速にまん延します。特に前年に発生が多かったほ場では、注意してほ場を見回しましょう。
- ・発生が見込まれる時期に、予防的にランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布しましょう。
- ・発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布しましょう。



クビアカツヤカミキリのフラス



せん孔細菌病春型枝病斑

たまねぎべと病
（苗における発病状況）*

次の情報は4月下旬にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）

病害虫の発生予報(4月)

果樹

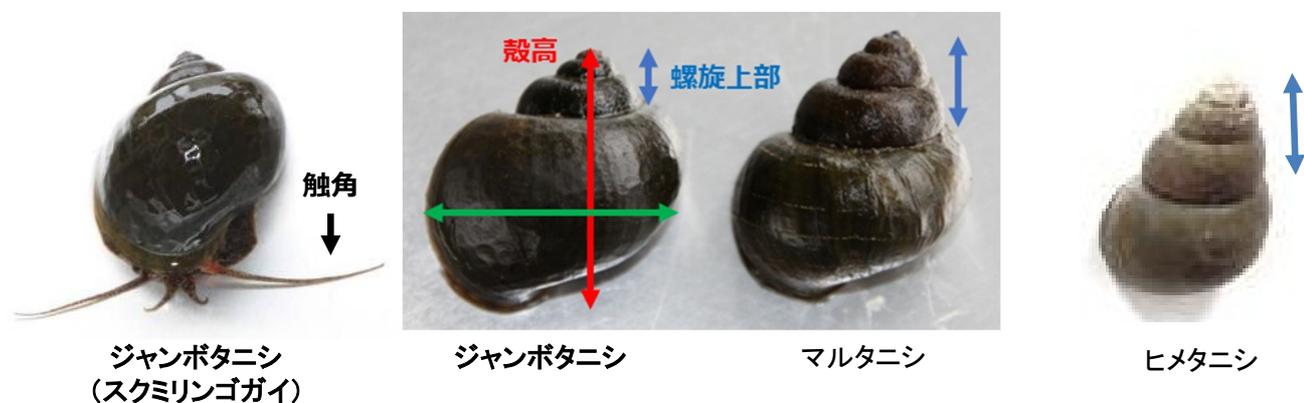
程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
もも			せん孔細菌病		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生地域が拡大)				

野菜

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
		灰色かび病			
		うどんこ病			
たまねぎ			アザミウマ類		
			べと病		
			白色疫病		
		ネギアザミウマ			

水稻

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



注)当該項目「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稻の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆成貝の殻高は2～7cm程度。
- ◆他のタニシ類に比較して、螺旋上部の長さが短く、殻径と殻高がほぼ同じである（上部写真参考）。
- ◆主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。
- ◆年々発生地域が拡大している。

防除のポイント

- ◆耕うんの際、耕うん機などの土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。
- ◆本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用トンゴなどを使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

果樹

ぶどう(加温栽培)

灰色かび病



灰色かび病の症状

特徴

- ◆多湿条件で発生が多くなる。
- ◆孢子（分生孢子）が雨や風によって飛散し、傷口などから感染する。

防除のポイント

- ◆適切に換気を行い、湿度を下げるようにする。
- ◆花がらが発生源となることが多いので、開花後に花がらを取り除く。
- ◆第1回ジベレリン処理から結実始めの間にビニルでマルチングをする。
- ◆開花直前または落花直後にゲッター水和剤、スイッチ顆粒水和剤、ネクスターフロアブルなどを散布する。

ハダニ類



カンザワハダニ※

特徴

- ◆加温機の近くやダクトの先端部など、高温になりやすいところから発生する。

防除のポイント

- ◆発生を確認した場合は、マイトコーネフロアブル、ダニコングフロアブル、ダニトロンフロアブルなどを散布する。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウの幼虫*

特徴

- ◆幼虫が葉や新芽を食い荒らす。
- ◆卵は100個くらいの塊で葉に産み付けられるので、卵からかえった幼虫が集団で葉を食べる。
- ◆早期加温栽培では3～4月に被害を受けやすい。

防除のポイント

- ◆幼虫が集団で発生している葉を切り取って処分する。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、ディアナWDGなどを散布する。

クワゴマダラヒトリ



クワゴマダラヒトリの幼虫※

特徴

- ◆成虫は年1回、アカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。
- ◆越冬は、主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で行う。越冬後、3月以降に幼虫が移動しブドウの新梢や葉を食害する。

防除のポイント

- ◆初期に新梢の生長点に加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
- ◆発生を確認した場合は、エクシレルSE、フェニックスフロアブル、オリオン水和剤40などを散布する。

もも

せん孔細菌病



せん孔細菌病の春型枝病斑

特徴

- ◆春になると越冬した病原菌が増殖し、春型枝病斑（スプリングキャンカー）を生じる。
- ◆病原細菌は、雨水に混じって分散し、気孔や傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆枝に形成される病斑の除去は、感染拡大を防ぐうえで非常に重要である。開花後に春型枝病斑を見つけた場合は、早急に、健全部を含めて大きめに取り除き、園外で適切に処分する。
- ◆風当たりの強い園地では、防風ネットを設置するなどの対策を行う。

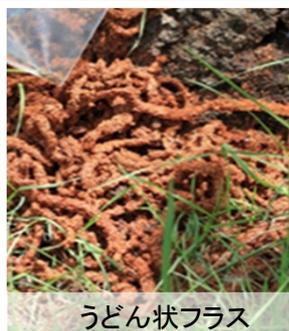
せん孔細菌病の特徴および防除方法については、下記リンク先もご確認ください。

- 令和4年3月22日発表 防除情報「せん孔細菌病（もも）に注意！」

http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/bouj_yoj_youhou/R0403senkousaikin.pdf

バラ科果樹(もも、すもも、うめ等のサクラ属)

クビアカツヤカミキリ



防除のポイント

- ◆被害が大きい樹は伐採し、破碎や焼却することが望ましい。
- ◆伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分ができない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い成虫が分散することを防ぐ。
- ◆幼虫は3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出すので注意する。フラスを見つけたら、千枚通しや針金を穴に入れ、中のフラスをかき出してから**ロビンフッド**、**ベニカカミキリムシエアゾール**を注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

伐採後の切株について



なるべく伐根する
伐根できない場合は

切株をビニルシートや
肥料袋などで覆う

さらにネットで2重に覆う
(根部まで全て)

処分に伴う運搬について

- ◆本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、**処分のための運搬であっても市町村の指示に従う**こと。
- ◆市町村焼却施設(もしくは市町村の清掃工場)で焼却可能な場合は、ネットで被覆するなどの**分散防止措置を実施の上**、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

- ◆廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、**野焼きは原則として禁止**されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。**例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。**

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

- 令和3年5月12日発表 防除情報「クビアカツヤカミキリに注意！」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyou/yohou/R0305kubi_aka.pdf
- 技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf

トマト・ミニトマト(施設栽培)

すすかび病



被害葉※ 表(左)

裏(右)

特徴

- ◆日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤、アフエットフロアブルなどを散布する。

灰色かび病



被害葉

被害果

特徴

- ◆施設栽培で発生が多い。20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生し、果実に被害が発生する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ロブラール水和剤やファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ※

トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

- ◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、媒介するコナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除草を徹底する。
- ◆グレースシア乳剤、トランスフォームフロアブルなどを散布する。

きゅうり(施設栽培)

黄化えそ病(ミナミキイロアザミウマ)



きゅうり黄化えそ病被害葉

特徴

- ◆キュウリ黄化えそ病は、メロン黄化えそウイルス (MSV) によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリなどに感染する。
- ◆MSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。
- ◆MSVは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。

防除のポイント

- ◆MSVを媒介するミナミキイロアザミウマの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

退緑黄化病(タバココナジラミ)



きゅうり退緑黄化病被害葉※

特徴

- ◆キュウリ退緑黄化病は、ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) によるウイルス病であり、キュウリ、メロン、スイカなどに感染する。
- ◆CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。
- ◆CCYVは、タバココナジラミによって媒介される。

防除のポイント

- ◆CCYVを媒介するタバココナジラミの防除の徹底が重要である。
- ◆雑草はコナジラミ類の生息場所となるほか、ウイルスの感染源にもなるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

なす(施設栽培)

灰色かび病



灰色かび病症状*

特徴

- ◆咲き終わった花がらや幼果に感染しやすい。
- ◆20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。

防除のポイント

- ◆適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆発生が見込まれる時期に、ベルコート水和剤等を、発生を認めたら、セイビーフロアブル20、ゲッター水和剤、パレード20フロアブルなどを散布する。

アザミウマ類



ミナミキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆ミナミキイロアザミウマとミカンキイロアザミウマが加害する。
- ◆苗からの持ち込みによる発生がみられることがある。

防除のポイント

- ◆発生が見られたら、アファーム乳剤、モベントフロアブル、ファインセーブフロアブル、ディアナSCなどを散布する。
- ◆育苗期には、モベントフロアブル、アベイル粒剤など、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

たまねぎ

べと病



べと病（苗における発病状況）＊

特徴

- ◆越年罹病株が感染源となり、3～5月に気温が高く降水量が多いと2次感染株発生が増え、急速にまん延する。

防除のポイント

- ◆特に前年に発生が多かったほ場では、注意してほ場を見回る。
- ◆発生が見込まれる時期に、予防的にランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ベトファイター顆粒水和剤、リドミルゴールドM、ホライズンドライフロアブルなどを散布する。

べと病の特徴および防除方法については、下記リンク先もご確認ください。

- 令和4年3月11日発表 防除情報「たまねぎのべと病に注意！」

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/R3rd/boujyouyouhou/R0403tamaneגיbet.o.pdf>

白色疫病



白色疫病発病株

特徴

- ◆2～3月が比較的温暖で雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆発生が見込まれる時期に、予防的にランマンフロアブル、ジマンダイセン水和剤を散布する。
- ◆発生を認めたら、ザンプロDMフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤、リドミルゴールドMなどを散布する。

ネギアザミウマ



ネギアザミウマ成虫 ※

特徴

- ◆成幼虫が葉の汁を吸い、吸われた痕はカスリ状に色が抜けて白くなる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**ディアナSC**、**グレーシア乳剤**、**プレオフロアブル**を散布する。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。

野菜類・花き類全般

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。
- ◆薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎくなど）、**アドマイヤー顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマトなど）、**コルト顆粒水和剤**（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）、**ウララDF**（なす、トマト、ミニトマト、ピーマンなど）を散布する。